



発行
豊中市人権教育推進委員協議会
機関誌編集委員会
(豊中市教育委員会傘下豊中社会教育課内)
電話 06-6858-2580

豊中市人権教育推進委員協議会

<https://toyonakajinkenkyou.com/>



ようこそ人権協へ

人権文化のまちづくりをすすめるよう
人権意識をより高めるよう
人権意識の輪を広げよう

ホームページを開設しました。
多くの方に活用して
いただければと思います。



巻頭言

子どもを育てる大切さ

副会長 若柳 玉典

「オランウータンいのちの学校」というドキュメンタリー番組を製しました。

インドネシアのカリマンタン島には世界でも珍しい特別な学校があります。生徒はオランウータン、森林破壊や開墾などで家を奪われた猿たちを保護し、野性復帰に向けて育てるいのちの学校です。



先生(人権)が新代わりとなって、食べ物を手に入れる方法、危険から身を守る方法や、仲間との付き合い方、道具の使い方、木の上で寝床を作ることなど、森で生きていくための大切な術をひとつひとつ教えていきます。

オランウータンの子育ては人間の次に長いといわれてい

ます。育児期間は8年、その間に親は子どもに森で生きる術を1日も離れず教えていきます。学ぶことは生きることそのものです。孤児たちはこの学校で保護されない限り生きていけないといわれています。

人間が奪った未来を人権の手で取り戻すいのちの学校は、世界的な企業家やアーティストの寄付で運営を支えています。絶滅の危機にあるオランウータンをこれまで350頭以上野生に帰したということと。

生きるためには学ぶことが大切ということは、私たちも同じだと思います。昨今、子どもを取り巻く困難が多くニュースなどで取り上げられています。心の痛みでまごともあります。愛情をもって育てることの大切さを実感します。子どもを大切に育てることは、未来を豊かにすることだと思います。

「人権教育をすすめる市民の集い」を終えて

- コロナ禍で開催が危ぶまれましたが、検討を重ね、多方面からの指導のもとと大人数の感染防止対策のうえ、皆さまにご協力のおかげで開催することができましたこと心から感謝いたします。

意見発表…テーマ:『安心』でできる学校づくり

発表者:橋本 真瑛(庄内南小学校長)

記念講演…テーマ:生命の星

講師:新宮 台(詩人作家 絵本作家)



■ 記念講演要旨

輪ち、文も、立体もやりませう。私は何かといひますと一地球人です。

出生から高次元で費中で過ごす。当時は、戦争末期のひもじい時代、いつも空腹だったが、雨まれた自然の中でまじいことを完つて遊んだ。伊丹の飛行場にもよく出かけた。実物を見ながら木彫りの飛行機を作り、日本兵に手先が通用だと認められた。敗戦後、連合軍の統治下になってわからず飛行場へ行った。米兵にチョコやチューイングガムをもらったこともあった。物不足が踏いていたが、周辺には米軍車両が走り、赤うカソソンの匂いに感嘆したのを憶えている。「ほいこは素晴らしい」ないものは創り出す!

と学んだ子ども時代を経て、既存の東京芸大に進学し、1960年に芸術学生としてローマへ。興味は、四角い輪から立方体輪へ、そして星形輪へと広がっていく。そんなとき、作品が大塚造船所の社員の目にとまりスカウトされ、6年いたローマを去り帰国。美術界というより建築界デビューし、涙で泣く、水で動くもの、地球のすばらしさを表現した作品を作ってきた。「私はアートを信じている。芸術・人種や年齢という藩綫をこえて、心で感じ、心へ伝わる。」そんないるいるな形で参画できる施設「地球アトリエ」を2024年開館に向けて進行中。

会計 林 久美子

■ 意見発表要旨

庄内南小学校は、豊中市の南部に位置しています。令和2年に創立50周年を迎えました。本校は、令和8年に千成小学校・庄内西小学校の3小学校、第七中学校と統合され、(仮称)南校となります。南校開校に先駆けて、令和5年に(仮称)庄内さくら学園が開校しますので、開校準備の様子を参考にしながら、「ゆるやかに」「なだらかに」統合することを目指して話し合いを行っています。

庄内南小学校が大切にしていること

- ・お互いを認め合える子ども
 - ・仲間の助けを借りる子ども
 - ・海東に向かって前向きに生きる子ども
- 今年の学校教育テーマ「結束・発達・安心」

私の考える学校における

子どもにとっての『安心』とは何か

- 『守られている』と感じること
- 『平等』であること
- 『頼ることができる』誰かがいること

『守られている』と感じること

豊城時・校内での子どもの変化を見逃さないように心がけています。話を聞き、困りごとを解決してもらうことで『安心』を手に入れるのではないのでしょうか。

『平等であること』

子どもたちの『平等』への感覚はまるでいもです。

『何てできない?』よりも

『どうしたらできるのかな?』

どうしたらより成功に近くなるかを一緒に考えることは大切な事です。

『人が人として幸せに生きていく権利』のこのを人権と思うと聞きました。自分の権利だけでなく、まわりの人のことも考えていくことを大切にしていきたいと思えます。

副会長 池邊 美代子

参加者の声...

- ・新宮さんの夢あふれるお話を感動しました。若い世代の人々と世代を超えてつながり、夢が葉がっていくのは素晴らしいと思います。
- ・庄内南小学校の橋本校長先生の意見発表は、子を持つ親として安心して子を学校に通わせることができると思う内容でした。
- ・橋本校長先生のお話から、小学校で子どもたちに安心して生活とるるように、どのように取り組まれているのかが分かりました。



豊中市人権校は今日まで「TPOの人権教育の育成と、人権が大原則とされた市民社会の発展」をめざし、取り組んでまいりましたが、日本中市民団体として、今後、自らの取組評価も大事なことを考え、本年迎えることづく『人権教育をすすめる市民の集い』においてご参加の御礼にまごめを申し上げますことさる33,146円の支援金をお寄せいただきました。皆さまの御支援と御参加は今後の人権校の活動に活用させていただきます。ご協力ありがとうございました。

地区委員会活動 現地研修会

十三中校区 生野コリアタウン

合同現地研修会を通して

十三中校区常任委員 荒川 由美子

初日の大雨が降るような穏やかな小春日和の12月8日に、十三中校区人権合同現地研修会でコリアタウンに行きました。

はるか昔、船橋まで舟が入り込んでいて海の向こうから人びとが渡ってきて定住し、国際色豊かな村を作っていたことや、さまざまな困難な時代や出来事乗り越えて力強く生きていった人びとの足跡を、人情味の西田先生がとても分かりやすく楽しくガイドしてくださいました。そして実際に現地先生の話を聞くことにより、理解感を深めて感じました。

今回、たくさんの方に参加していただきました。これは十三中校区の各地区代表委員さんが賞状からあたたかく皆さんに送っているからだと思います。

合同現地研修会を通して、皆さんの心の片隅に温かい人権の道をともしてくださったと感じます。



二中校区 児童養護施設「翼」

子どもが大切に育まれる社会をめざして

桜井谷東地区代表委員 地藤 祐美

今回のお話の中で印象的だったエピソードの1つに、地域小学校において児童の保護者を指す言葉を「お父さん」「お母さん」から「うちの父」「うちの母」というものがある。

これは「翼」との密な連携があってこそその変化であり、施設児童の心情を慮ることから始まったのだが、このケースに限らず自分にとっての当たり前が誰かを傷つけたり困らせてはいないかなど、想像力を働かせることは人権を考える上での出発点であると思う。その中で得られた気付きから小さな変化を起こし続けること、未来を担う子どもたちを大切に育んでいくことや自分たちの周りの人々たちへの温かく優しい心を忘れないことがどんどん積みになり、誰もが安心して幸せに暮らせる社会へと繋がるのだと感じたい。

(費に関する詳細は人権図 HP 視覚版バックナンバー第160号をご参照下さい)



第二回推進委員研修講座を受けて

テーマ 「すべての子どもが輝く学校をめざして」

講師 矢木 克典さん (大阪薫英女学院高等学校 参事)



今回の推進委員研修講座では、豊能地区教職員初任者研修の「障害」についての考え方の話を聞きました。

今は「障害」という表現から「症(しょう)」という表現になって誰でも特性はあるものとの捉え方でした。特性は適切な関わり方をすることで「個性」として力を発揮して、その子の強みになることがわかりました。適切な関わり方とは「合理的配慮」をして、社会にある障壁を取り除くことであり、私たちが自身の考え方や徹底的の見方も変えることが必要だと感じました。問題行動のある子どもを「困った子ども」と見るのではなく「困っている子ども」として見ることで、問題行動だけに焦点を当てず、その子がどんなときに(先行条件)、問題行動が起こり、その後、どんな出来事があるのか(行動の結果)を一連の流れで捉えて、注意するときは具体

的に適切なタイミングで行い、その結果として早急しい行動をしたときは具体的にどこが良かったのかを褒めて、自己有用感を持ってもらうことがとても大切だとわかりました。

また、特性のある子どもを理解するための実態把握(アセスメント)のポイントには、できないことばかりを聞くのではなく、どんなことが「がんばれるのか(強み)」を聞くことによって子どもの特性の理解に繋がり、できないはダメではなく、なぜできないのか? どうしたらできるのか? という視点を持つことが大事だと気付くことができ、自分の子育てにも生かせることがたくさんあると感じ、とても有意義な研修を受けることができました。

庄内さくら学園中学校常任委員 園見 静香

学校では今

「一人ひとりが強いつながりをもてる学校」をめざして

庄内さくら学園中学校長 亀谷 智

昨年度（2020年度）、本校は第六中学校と第十中学校が統合されて、新しく「庄内さくら学園中学校」として生まれ変わった学校です。そして令和5年度（2023年度）には、庄内小、野田小、島田小の3小とも統合され、小中一貫校の義務教育学校「庄内さくら学園」が誕生する予定です。新しい学校を建設していくにあたって、庄内小学校、第六中学校の敷地を明け渡すこととなり、第六中は第十中の敷地で統合されることとなったのです。それが昨年度の4月でした。しかし新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、4月7日に開校式・入学式をしただけで、翌日より休校となってしまい、新しい学校の始動がなかなかできず、ようやく6月に再開となったのです。

庄内さくら学園中学校の開校に伴い、学校スローガンは、「一人ひとりが強いつながりをもてる学校～『自治の力』を高め、未来を切り拓く」としました。この「一人ひとりが強いつながりをもてる学校」というスローガンは、統合される前の第六中生徒会執行部と第十中生徒会執行部の交流会の中で決まっていたものです。「統合されてできる新しい学校を、どんな学校にしていきたいのか」を両校の生徒会執行部で話し合い、出てきたスローガンです。生徒どうしはもちろん、教職員、保護者、地域の方々とのつながりを築くもっていかけるような、そんな学校にしていきたいとの思いが込められています。ですから、その思いを形にしていこうと学校スローガンにあげました。しかし行事や活動が、コロナ禍の中で中止あるいは縮小という形ですんでいきました。そんな中でも「自分たちの学校は、自分たちの力で創っていく」との思いは、少しずつ生徒会活動を軸に形となって表れてきているのではないかと感じています。

今年度の入学式で、生徒会執行部の代表の「歓迎の言葉」の中で新入生に次のように思いを伝えていました。

「ここで、大切なことを二つ伝えます。一つ目は、学校スローガンである「一人ひとりが強いつながりをもてる学校」です。強いつながりをもつというのは、一人ひとりがお互いのことを理解し、助け合うことです。私たちはこの学校スローガンをとても大切にしています。二つ目は、生徒会員がさくら中の生徒会の一員だということです。今日からみなさんもさくら学園中学校生徒会の一員です。生徒会活動は、行事だけではなく、何気ない日常の中で、思いやりと優しい心を持つ。これこそが本当に大切なことです。学校スローガン、生徒会活動のこと、この二つを心に刻んでほしいと思います。」

私は校長の役割は「学校の中にどんな空気を作り出せるか」だと思って、これまでやってきました。つまり「一人ひとりにとって居心地がよく、つながりを実感できるような学校」を子どもたちと共に創り出していくことを大切にしているんだということを実感してもらえるように働き取り組んできたつもりです。そして1年後には、豊中市初の義務教育学校が開校しますが、果たして「どんな空気に満たされた学校」として生まれ変わっていくのでしょうか。

みなさん、温かく見守っていただければと思います。



編集後記

昨年、東京2020オリンピック・パラリンピックが1年遅れで開催されました。これまで禁止されていた、選手たちによる人種差別への抗議行動などが一部認められるようになり、抗議を表明するポーズをとる選手の姿を目にすることがありました。

オリンピック事案に「多様性と調和」というものがあります。いかなる種別の差別も許さず、お互いの違いを受け入れ、認め合う。

このような機会が人種問題に目を向けるきっかけになればと思います。

最後になりましたが、機関紙「じんけん」162号発行にあたり、ご執筆、ご投稿いただきました皆さまに心よりお礼申し上げます。

書記 福田 みどり